

社団法人 日本時計学会

平成 17 年度事業報告書

(自 平成 17 年 1 月 1 日 ~ 至 平成 17 年 12 月 31 日)

・ 事業の状況

1. 研究会、見学会、学術講演会等の開催

[1] マイクロメカトロニクス学術講演会

本年度よりマイクロメカトロニクス学術講演会の開催を年 1 回とした。本学術講演会に合わせて、企業からの時計製品紹介セッションを設け、最新の時計製品と、そこに組み込まれる技術の紹介を行った。また、愛知万博に出品した田中久重作「萬年時鳴鐘」の復元プロジェクトを中心となって手がけた土屋栄夫氏、鈴木一義氏による特別講演を開催した。学術講演会の概要は以下の通りである。

概要：

(1) 期日：2005 年 9 月 2 日 (金)

(2) 会場：中央大学理工学部校舎 5 号館 5233 号室 (後樂園キャンパス)

(〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27)

(3) 協賛：(社)エレクトロニクス実装学会，(社)応用物理学会，(社)計測自動制御学会，(社)精密工学会，(社)電気学会，(社)電子情報通信学会，(社)日本応用磁気学会，(社)日本機械学会，(社)日本設計工学会，(社)日本ロボット学会など

学術講演会	9 : 40 ~ 15 : 10
時計製品紹介	15 : 20 ~ 16 : 20
特別講演 “ 萬年時計復元プロジェクト ”	16 : 30 ~ 17 : 40
懇親会	18 : 00 ~ 19 : 30

(4) 講演発表論文 13 件 製品紹介 4 件

1) 講演論文題目

「弾性変形を利用した一体型変位縮小機構について」

「弾性ヒンジを用いた変位拡大機構の開発」

「棒の縦衝撃における反発係数とエネルギー分配」

「棒と梁の衝突における運動特性とエネルギー分配(衝突回数が比較的少ない場合)」

「穿刺反力に基づく硬膜外麻酔針の精密位置決め制御に関する研究」

- 「炭素繊維複合材料を利用したウェアラブルコンピュータの開発」
 - 「新開発薄型超音波モータによる KINETIC パーペチュアルカレンダー Cal.7D の商品化」
 - 「Eco-Drive Robot の開発」
 - 「液晶光学素子による光波面制御とその応用」
 - 「デジタル直交検波による長波標準電波受信回路」
 - 「フルメタル女持ち電波時計の開発」
 - 「電波ソーラー・トリプルセンサーの開発」
 - 「電子社会と時刻認証」
- 2) 製品紹介セッション参加企業
オリエント時計(株)、カシオ計算機(株)、シチズン時計(株)、セイコーウォッチ(株)
- 3) 特別講演
- 講師：鈴木一義 氏 「江戸期技術調査計画と万年時計復元・複製製作の経過」
 - 講師：土屋栄夫 氏 「万年時計の概要・その特徴 - 現代から見て - 復元と複製への苦心」

[2] 研究会

(1) 春季研究会

- 1) 講師 マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
白鳥 典彦 氏
- 2) 日時 2005年3月18日(金) 14:00~16:00
- 3) 会場 中央大学理工学部2号館2526号室
- 4) 研究題目 「腕時計型行動識別計 ViM (ビム)」
- 5) 参加者 会員20名

(2) 秋季研究会

- 1) 講師 セイコー・エプソン株式会社 ウォッチ事業部 Wマイクロデバイス部
課長 宮澤 修 氏
- 2) 日時 2005年11月18日(金) 14:00~16:00
- 3) 会場 中央大学理工学部2号館2526号室
- 4) 研究題目 「 μ FR (マイクロフライングロボット) について」
- 5) 参加者 会員15名 非会員 2名

[3] 見学会

平成17年7月1日、つくば市の産業技術総合研究所・ファインファクトリグループを見学した。見学対象はマイクロファクトリ、卓上複合加工機、エアロゾルデポジション、ナノインプリンティング。参加者 24名

2. 時計及び時計応用技術に関する調査研究

特記すべき活動は無かった。

3. 学会誌、学術図書等の刊行

[1] 学会誌「マイクロメカトロニクス」を下記のとおり年2回発行した。

Vol. 49, No. 192 : 平成17年 6月、500部

Vol. 49, No. 193 : 平成17年12月、500部

[2] 講演論文集を年1回発行した。

秋季マイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集 : 平成17年9月、150部

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

第39回青木賞選考委員会を設け、平成16年度の日本時計学会誌「マイクロメカトロニクス」に掲載された研究論文16件を審査した。その結果、次の論文を青木賞該当論文とする事を9月2日開催の理事運営委員会において承認した。9月2日のマイクロメカトロニクス学術講演会において青木賞贈呈式を行った。

論文題目 : 体動アーチファクトに強い脈拍計測技術の開発

研究者 : 小須田 司、青島 一郎

所属 : セイコーエプソン(株)

表彰理由 : 完成度が高く、工学的貢献度が高い。運動時の脈拍計測の実現は、日本時計学会の活動目的に照らしても有意義である。

5. 内外関係機関等との交流及び協力

[外国機関] 米国 : National Institute of Standards and Technology、National Association of Watch and Clock Collectors、LIB.of Congress、英国 : The British Library、Michael Faraday House、LIB.of Japanese Science & Technology、ロシア : The Inst. of Scientific & Technical Informatin(VINITI)、ドイツ : Universitats-und Technische Informationbibliothek、との機関誌等の交換を行った。

[協賛] 研究会および学術講演会を、(社)日本機械学会、(社)精密工学会、(社)応用物理学会、(社)電子情報通信学会、(社)日本金属学会、(社)軽金属学会、(社)日本設計工学会等関係学会と協賛して実施した。

6. その他、学会の目的を達成する為に必要な事業

特に無し。

． 処務の概要

1． 役員等に関する事項

平成17年12月31日現在

役名	氏名	就任年月日	担当職務	手当	現職	所属
会長	石坂 昭夫	平成17年3月14日	業務の総括	無	東海大学	工学部精密工学科
副会長	平石 久人	平成17年3月14日	会長の補佐	無	シチズン時計(株)	MHT開発本部
常務理事	吉村 靖夫	平成17年3月14日	業務の総括	無		
理事	青木 茂	平成17年3月14日	企画	無	セイコーエプソン(株)	ウォッチ事業部 W商品開発部
理事	今江 理人	平成17年3月14日	出版・編集	無	産業技術総合研究所	計測標準研究部門周波数システム研究
理事	梅田 和昇	平成17年3月14日	広報	無	中央大学	理工学部精密機械工学科
理事	大隅 久	平成17年3月14日	事業	無	中央大学	理工学部精密機械工学科
理事	大谷 親	平成17年3月14日	青木賞	無	千葉工業大学	工学部機械サイエンス学科
理事	久保田 浩司	平成17年3月14日	相談役	無		
理事	佐々木 健	平成17年3月14日	出版・編集	無	東京大学大学院	新領域創成科学研究科 環境学専攻
理事	中島 悦郎	平成17年3月14日	企画	無	カシオ計算機(株)	時計事業部第3商品企画部
理事	榎林 達雄	平成17年3月14日	出版・編集	無	東海大学	工学部精密工学科
理事	前原 芳文	平成17年3月14日	企画	無	セイコーインスツル	ムーブメント事業部
理事	宮里 孝典	平成17年3月14日	相談役	無		

監事	日野須磨子	平成17年3月14日	監査	無	国際時計通信社	
監事	服部真二	平成17年12月16日	監査	無	セイコーウォッチ(株)	代表取締役社長

2． 職員に関する事項

職務	氏名	就任年月日	担当事務	手当	備考
事務員	英 宣子	平成17年7月1日	庶務会計		NPO法人PENの職員

3． 理事会及び総会に関する事項

[1] 理事会

開催年月日	主な議事事項	会議の結果
平成17年1月28日	平成16年度収支決算及び事業報告案、 NPO PEN への業務委託案	可決・承認
同 3月14日	次期理事・監事選任案、定款変更申請案	可決・承認
同 3月14日	会長、副会長、常務理事の選任	可決・承認
同 6月17日	学術講演会、見学会、研究会、役員業務 分担案	可決・承認
同 9月2日	監事の辞任、運営委員の交代案、青木賞	可決・承認
同 11月18日	平成18年度事業・予算計画案	審議
同 12月27日	平成18年度事業計画案・予算計画案、 監事選任	可決・承認

[2] 総会

開催年月日	主な議事事項	会議の結果
平成 17 年 3 月 15 日	定款変更申請案、理事選任案	可決・承認
同 12 月 27 日	監事辞任・交代、平成 18 年度事業・予算計画案	可決・承認

4. 許可、認証、承認、証明などに関する事項

該当なし。

5. 契約に関する事項承認

契約年月日 : 平成 16 年 11 月 1 日

相手方 : 特定非営利活動法人精密科学技術ネットワーク

契約の概要 : 当学会の庶務・会計等の事務業務の委託

6. 主務官庁指示に関する事項

[1] 経済産業省の实地検査

実施日時 ; 平成 17 年 3 月 22 日 10:10 - 15:00

検査官 ; 製造産業局産業機械課 梅沢課長補佐・猪鼻係長

学会側参席者 ; 宮里、佐々木、吉村、久保田、中野 (以上、理事) 村松 (PEN)

指摘を受けた改善点 ;

- (1) 諸規定の整備及び見直し (委員会の運営規定、委員の選出方法の整備、入会・退会手続きに関する規定を整備、公印使用簿の整備、事務委託契約の手続きの明確化、積立金の使用用途・取崩しに関する手続き規定の整備)
- (2) 登記事項 (資産総額の変更登記の手続きと、主務大臣への届出を履行)
- (3) その他 (HP 上での情報公開を適切に行う事、予算と決算に大きな差異が生じない対策、法人備付書類の集約化と整理を履行)

学会の対応 ; 独自学会事務局の開設に伴い、上記の指摘事項を徐々に整備していく段階である。

[2] 文部科学省の实地検査

実施日時 ; 平成 17 年 12 月 20 日 14:00 - 20:00

検査官 ; 文部科学省研究振興局学術研究助成課・研究調査係主任 福元紘一氏 研究

成果公開促進係 岡部 法男氏

学会側参席者；石坂（会長）吉村（常務理事、事務局）岡部・英（PEN）

指摘を受けた改善点；

- （１）法人の業務の運営状況 C 評価（議事録の署名印が未整備、所管官庁への届出期限の厳守、事務所賃貸契約書の不整備、事務局の就業規則の作成）
- （２）事業の内容及び実施状況 B 評価（中期計画の作成、学会事務センタの破綻による預け金回収不能等で管理費の膨張）
- （３）会計処理、収支及び資産の状況 B 評価（契約の決済、見積書等の取付け）
- （４）予算及び決算の状況 B 評価（事業毎の予算の明確化、予算と決算との大きな差異の理由が記載されていない、学会事務センタの破綻による預け金回収不能等で当期収支差額がマイナス、財産目録の作成様式が不十分、残高の明細を記載）

学会の対応；独自学会事務局の開設に伴い、上記の指摘事項を報告期限である平成18年6月末までに徐々に整備する。

7. 会員数動向

会員種別	平成17年度末	平成16年度末	増減数
正会員	220（名）	255	35
賛助会員	24（件）	27	3
学生会員	14（名）	20	6
名誉会員	1（名）	1	±0
計	259	303	44

8. その他重要事項

該当なし